

TRANSITION TO HEALTH (117)

“ 新型コロナウイルス感染 ④3 ”

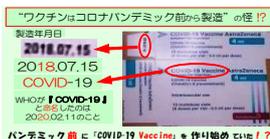
～ ワクチン追加接種者の近未来予測 ～

はじめに 旧成人の日（1月15日）で、日本での新型コロナ騒動は丸3年が経過し4年目に突入することになる。この3年間、メディア、厚労省などの公衆衛生当局、医療官僚機構（CDC、FDA、WHO）などから、嘘、歪曲、偽情報を延々と聞かされ続けてきた。コロナワクチンを5回接種した人もいるが、4回目の接種を終えた日本人は40%強のようである。接種率がこれ以上伸びないことを願ってやまない。さて、今号ではワクチン接種者の近未来を予測してみたいと思う。その前に、マスメディアが報じなかった「コロナパンデミック」の初期の不可解なニュースをおさらいしておこう。

マスメディアが報じなかった FACT NEWS

◆ 「COVID-19」命名前にワクチン製造開始

「COVID-19」命名の少なくとも1年7か月前には、ワクチンの製造が始まっていた。（アストラゼネカ）



◆ アフリカの反ワクチン大統領 4 人の暗殺疑惑



アフリカは、感染者も死亡者も非常に少ない大陸である。

◆ 感染症の診断に用いてはいけない PCR 検査、マリス博士の暗殺疑惑（健康通信 No.86 2020.10）

PCR（ポリメラーゼ連鎖反応）法を1987年に開発したアメリカの生化学者 キャリー・バンクス・マリス博士は、1993年にノーベル化学賞を受賞した。博士によると、PCR法は研究目的とするウイルス遺伝子（の一部）を増幅するための方法であって、ウイルス感染症の「診断や治療に用いる方法ではない」ということである。実は、マリス博士は2019年8月、謎の突然死を遂げていた。死因は「肺炎」と報道されたが、家族・消息筋は「口封じの為に暗殺された」と主張している。

◆ 「PCR陽性 = 新型コロナ感染」・・とは 限らない！

PCR法では、右表の如く、他のウイルスにも陽性反応が出てしまう。「診断や治療に決して用いてはいけない」と、検査キットの取扱説明書の注意書きに記載されていた。コロナウイルスの死骸、他の風邪コロナウイルス、インフルエンザウイルス、肺炎ウイルスなども検出し得る。

PCR検査陽性	新型コロナ感染
取扱説明書の注意書き	
「インフルエンザ、B型/髄膜炎ウイルス、呼吸器 syncytial virus (type B)、呼吸器 adenovirus (type 1)、Parainfluenza virus (type 2)、他のウイルスにも陽性反応する。このPCRは診断や治療に用いては行けない！」	Influenza Virus (H1N1) Influenza Virus (Yamagata) Respiratory Syncytial Virus (type B) Respiratory Adenovirus (type 1) Parainfluenza Virus (type 2) Myxoplazma Parvovirus Chlamydia Pneumoniae

◆ 新型コロナウイルス・COVID-19 の実在を立証できない世界の厚生当局

WHO、CDC、その他日本の厚労省を含む60カ国以上の厚生当局は「新型コロナウイルスの情報開示要請」を突き付けられたが、全ての機関・当局からの回答はすべて『新型コロナウイルスが実在することを立証できない』というものであった。

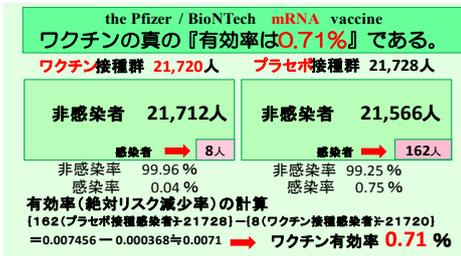
◆ 7つの大学研究室で1,500検体中 COVID-19 は1件もなかった・・・新型コロナは架空のウイルス？

カリフォルニア大学、スタンフォード大学、コーネル大学の7つの研究室で、PCR検査陽性患者の検体1,500検体を精査したが、COVID-19は1検体も存在しなかった。殆どはインフルエンザAで、ごく一部がBであった。研究者たちは「COVID-19は想像上かつ架空のものである」と結論付けた。研究者は『COVID-19詐欺』としてCDCを告訴した。

◆ 告訴されたCDCは「測定可能な新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）を持っていない」ことを認めた

CDCは、2020年7月13日「測定可能なCOVID-19ウイルスを持っていない」と認めた。「PCR検査陽性死亡者の6%のみが新型コロナウイルスによる死亡、残りの94%は、ウイルス感染が原因ではなく、抱えていた深刻な健康上の問題（基礎疾患）の増悪が本当の死亡原因である」とも認めた（健康通信 No.95 2021.07.10）。現在の日本の状況そのもの。

ワクチン接種が接種後死亡・変異株出現・感染拡大・超過死亡増加の原因である

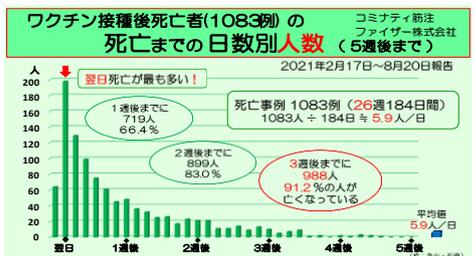


ワクチン接種政策の現実 (2021.08)

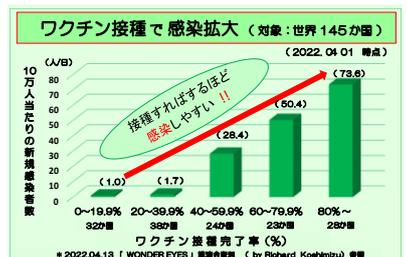
厚生労働省・・・審議結果報告(2021.02.12)
「・・・安全性データは得られていない」
「安全である」とは言っていませんよ!

Pfizer社・・・予防接種についての説明書
「感染予防効果は明らかになっていません」
「予防できる」とは言っていませんよ!

打ちたい・接種したいと言って承諾書にサインしたのは
あなた自身ですよ! → **自己責任**



わずか **0.71%**しかない有効率(絶対リスク減少率)を、数字マジックを用いて有効率 **95.0%**と偽って人々を欺き(??)、御用学者、ワクチンメーカー・テレビお抱え感染症専門家、お抱え弁護士・元国会議員・アスリート・タレントなどが、無責任にも早期のワクチン開発を訴え、その要望に応える形で、人間に対する**安全性・有効性**を確認する臨床試験を完全に**無視し省略**して、史上初の mRNA ワクチンの**人体実験**が開始された。その結果、ワクチン接種翌日にピークを有する**副反応死(接種後死亡)**が発生した。その後、接種者から**変異株**(正しくは変異体)が発生し、接種者を中心に**感染拡大**。接種完了率 80%以上の国々の感染率は、接種完了率 20%未満の国々の **70 倍以上**にもなっていた。また、英国政府が隠蔽していた国家統計局のデータによると、ワクチン接種 **3 回完了**小児(10～14 歳)のコロナ感染**死亡**は、未接種小児の**303 倍**にもなっていた。ワクチン接種は極めて**危険**で、接種すればするほど**感染しやすく重症化し、死亡**しやすい代物であることが判明した。ワクチン慎重論をデマ扱いしてきた結果である。



ワクチン接種完了者の近未来・・・感染源、脳・心臓血管疾患、自己免疫疾患、癌?

ワクチン接種は医療従事者から始まり高齢者へと進められてきた。ワクチン接種率の高い医療従事者や介護施設・高齢者施設の職員は、感染者との接触が無くても、自らが自然発生的(必然的?)に**感染源になり得る**、**コロナ患者になり得る**ことが指摘されている(右表参照)。また、患者さんの多く、入所者はご高齢であり接種率が高く、感染源・コロナ患者になり得るので、医療施設・介護施設・高齢者施設での**クラスター**の発生、**医療崩壊**が危惧される。さて、今までワクチン慎重派の科学者・研究者・医療従事者らが報告してきたワクチン接種後の有害事象を総括すると、下図のような未来図になる(個人的見解)。コロナワクチン信奉者が今後すべきことは、**健康診断・がん検診**の積極的受診なのかもしれない。



COVID-19 mRNAワクチンの4つの動き (個人的見解) (2023. 1. 7 作成)

- スパイク蛋白産生**
被接種者の**全身の臓器**で**スパイク蛋白**を**産生**させ続ける
- 免疫破壊**
被接種者の**自然免疫**を**破壊**する
- シェディング (shedding)**
被接種者の**呼吸・汗・皮脂**中に**スパイク蛋白**を排出させる
被接種者を、**超感染源 (super spreader)**にしてしまう
- 新型コロナ易感性**
被接種者に、**COVID-19**を**発症**させる

第7波 COVID-19 ワクチン 「高齢者に一定の効果」に対する解釈 (個人的見解) (2022.11)

ワクチン推進派	ワクチン慎重派の思考
高齢者の3回目接種率が 90% を超えていたので、重症化する高齢者は少なかった。 ワクチンに重症化阻止効果が認められる。	自然感染で重症化してしまう(基礎疾患を有する)高齢者は、ワクチン接種の毒性に耐えられず、 副反応 (正反応というべき?)により 接種後死亡 していたため、自然感染で重症化し、死亡する高齢者は、少なくなっていた。 自然感染より、ワクチン接種の方が危険である!

第8波 新型コロナ感染症 「高齢者の死亡者増加」に対する解釈 (個人的見解) (2023. 1. 7)

ワクチン推進派	ワクチン慎重派的思考
情報把握・管理方法の変更、規制緩和等により、実際の感染者数は報告数よりはるかに多く、2倍以上かもしれない。 感染者数が増加すれば、死亡者数も増えるのは当たり前。(基礎疾患の悪化) 若い人は、もっと積極的に ワクチン を接種し、高齢者にうつさぬよう、 感染対策 の徹底を図ってください。	COVID-19ワクチンの接種により、スパイク蛋白の継続的産生、 自然免疫の破壊 により「 感染しやすく、重症化する 」のは当たり前。(基礎疾患の悪化) 自然感染より、ワクチン接種の方が危険である! 直ちに、 ワクチン接種の中止を!

おわりに マスメディア(公共放送NHK・民放)の報道責任は重大 (No.87、No.88 & No.98 に詳述)

2020年12月1日、元・Pfizer社の副社長兼最高科学責任者のMichael Yeadon博士が、欧州評議会の保健衛生委員会委員長Wodarg博士と連名で、EU政府の**欧州医薬品庁(EMA)**に対して『**全ての新型コロナワクチンの研究(第Ⅲ相臨床試験)の中止**』を要求して**緊急請願**・異議申し立てを行った。NHKは2021年8月10日、NHK特集『**フェイク・パスターズ**』で、Yeadon博士をデマ情報発信の中心人物と決めつけ、「**政府・厚生省が発信する情報＝正しい情報**」「**ネット上に拡散する情報＝デマ**」と報じていた。「**Yeadon博士が正しかった**」ことを、「**ネット情報が正しかった**」ことを、今、歴史(2021～2022)が証明してくれている。 **TRANSITION TO HEALTH** (理事長・医師 丸山正明)